競争入札設計図書等に関する回答書

令和7年10月3日

福島県相双建設事務所長 佐藤 敬

工事（委託業務）番号	第25-41370-0193号
工事（委託業務）名	道路橋りょう整備（帰還）工事（歩道橋）
質 問 事 項	
<p>1. 「横断歩道橋一般図」についてです。横断歩道橋の完成年次が昭和44年と記載されています。PCBを可塑剤として使用したことが確認された塗料の製造期間は、最初に製造された昭和41年から通商産業省（当時）による製造中止の通達が出された昭和47年1月までのようですが、本案件は該当します。横断歩道橋撤去計画図（4）によると、2021年に歩道橋補修工事をされているようですが、当時の工事施工前にPCBや鉛等の橋梁有害物調査をし、その存在を確認しましたでしょうか。本案件で橋梁有害物調査の項目がないということは、前記工事でPCBや鉛等が検出されなかったもしくは、補修工事前に除去をしたということでしょうか。</p> <p>2. 本工事内訳書 頁 0-0008 構造物取壊し工 下部工 コンクリート構造物取壊し 構造物とりこわし工（機械施工）無筋構造物についてです。「下部工・擁壁工取壊し構造図」の下部工詳細図や「下部工・擁壁工取壊し数量集計書」において躯体とRC杭は「鉄筋コンクリート」として計上しています。下部工詳細図や数量集計書のほうが正と考えますが、ご確認ください。</p> <p>3. 数量総括表 2/5 高力ボルト工 トルシア型高力ボルト撤去工 176本の算出根拠として数量集計表よりとしています。記載が見受けられません。記載箇所である頁を具体的にご教示いただけないでしょうか。</p> <p>4. □5工事現場発生品についてです。再利用するわけではない撤去材の高力ボルトを撤去して分割する形になっていますが、再利用以外の特別な理由があるのでしょうか。</p> <p>5. 横断歩道橋撤去計画図（5）〈下部工〉についてです。 既設杭は撤去高以深を残置するようですが、残置部分は再利用するのでしょうか。再利用するために破損がないようにワイヤーソー切断をするということでしょうか。</p> <p>6. 第10章 総則 □2 工事用地等の使用についてです。 「□1」一次仮置き作業に係るヤードとして、別添「横断歩道橋撤去計画 図」による土地を使用すること。（土地の使用は可能である。）とあります。地権者との交渉次第で一次仮置き以外の目的である資機材ヤードとしての使用は可能と考えてよろしいでしょうか。</p>	

7. 歩道橋桁部の信号機や階段部 P2-A3 付近の道路案内標識の移設について警察との協議はお済でしょうか。

8. 旧橋撤去工 仙台側昇降部 桁材撤去の日数及び数量計算書 P10 § 4. クレーンの日数についてです。

主桁 1 本当たり重量 $w=5\sim 10t$ 未満 日当り作業量 36t/日としていますが、接合箇所をそのまま取り外すと、部材の不安定さによる転倒が生じるおそれがあるため、部材をクレーンで吊りながら撤去する必要があります。そのため、日当り作業量は「旧橋撤去技術マニュアル参考資料-2 P13 (注) 4.」にある、「撤去桁をクレーンで吊りながらワイヤーソーイング工法等で切断撤去する場合の日当り施工量は、上表 () 書きの数量を日当り施工量とする」にならい、18t/日を適用する必要があります。計算条件の夜間作業時間 3.0h にならい計算すると、夜間撤去の日当り施工量は 7.5t/日になります。1 ブロック当たり施工日数は $5.9/7.5=0.79$ 日となり、仙台側昇降部は 2 日必要になります。設計書ではご支給の計算書を根拠にして 1 日となっていますが、ご確認いただけますでしょうか。

回 答 事 項

1. 横断歩道橋一般図について

歩道橋については磐城国道事務所の所有物であり、橋梁有害物の存在は確認しています。磐城国道事務所との協議により除去不要で引き渡すこととなっていますが、施工条件等の変更が生じた場合は、福島県工事請負契約約款第 18 条に基づき協議の対象とします。

2. 本工事内訳書 頁 0-0008 構造物取壊し工について

鉄筋構造物が正となります。電子閲覧システムの設計図書「kinnuki002」「suuryou001」を修正しましたので、ご確認願います。

3. 数量総括表 2/5 高力ボルト工について

電子閲覧システムの設計図書「suuryou002」数量集計表 P11 員数 48・40 部材名 SPL BN M22×70・65、P13 員数 48・40 部材名 SPL BN M22×70・65 が高力ボルトの数量になります。(48+40+48+40=176 本)

4. □5 工事現場発生品について

再利用はしませんが、高力ボルトは磐城国道事務所の所有物として引き渡すため分割することとしています。

5. 横断歩道橋撤去計画図 (5) 〈下部工〉について

残置部分は再利用しませんが、工事により現道に影響を及ぼすため、既存の杭を全撤去することが困難なことからワイヤーソーイング工法で切断する計画としております。

6. 第 10 章 総則 □2 工事用地等の使用について

受注者が地権者との交渉により、資機材ヤードとして土地を使用することは可能と考えます。

7. 歩道橋桁部の信号機や階段部 P2-A3 付近の道路案内標識の移設について

信号機移設は警察と協議済みです。

道路案内標識について移設は計画していませんが、施工条件等の変更が生じた場合は、福島県工事請負契約約款第 18 条に基づき協議の対象とします。

8. 旧橋撤去工 仙台側昇降部 桁材撤去の日数及び数量計算書 P10 § 4. クレーンの日数について

夜間通行止めの日数については、磐城国道事務所との協議等により算定していますが、施工条件等の変更が生じた場合は、福島県工事請負契約約款第 18 条に基づき協議の対象とします。

※福島県測量等委託業務条件付一般競争入札試行要領(平成 20 年 3 月 28 日付け 19 財第 7998 号)及び農林水産部又は土木部が所掌する測量等の請負契約に係る指名競争入札事務処理手順(平成 20 年 3 月 28 日付け 19 財第 7986 号入札改革グループ参事通知)に基づき使用する場合は、工事を委託業務に改めること。